

北海道各地から産出する黒曜石
その70

～黒曜石の原産地(噴出源) その4～

<まとめ>

(1)2017年現在、16地域・地方において23種類の組成グループに分類可能。

(2)現地調査を実施するなど、常に地質学的な立場から考察を実施したことで、黒曜石の噴出源の特定及び推定ができた。また、これまで黒曜石の産出場所が分散し、別々に分類・記載されていた黒曜石についても同一の組成グループにまとめることが可能となった。これによって北海道内の遺跡から発掘される黒曜石製石器の原産地同定への応用が可能となり、先史時代における黒曜石の運搬経路が判明し、ひいては黒曜石とともにやってきた文化・技術の伝播経路とともに、黒曜石の石器という“モノ”を通した間接的ではあるが科学的に人々の交易・交流が明らかになることを意味している。

(3)EPMAによる分析手法は、これまで実施されている蛍光X線分析法などを補完する新しい手法であるとともに、これまでの原産地同定の結果について検証可能なことも意味している。

(4)以上の調査・分析結果は、古代から中世、そして近世にかけて発展していく環日本海における大陸をも含めた人々の交易・交流を探るための基礎研究として確立され、今後その応用が十分期待できる。



北海道地方における黒曜石の産出地

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

Mukai Masayuki
(学芸員 向井 正幸)

旭川市博物館HP

